

## 豆知識

### 「にほふ」と「におう」

現代語で「におう」と言えば、「嗅覚きゅうかく」のイメージだけど、古文の「にほふ」は「嗅覚」よりも、「美しく染まる」という「視覚」にうつたえる言葉だったんだ。「にほふ」はもともと「丹秀ふ」で、「丹」は赤い色、「秀」は他より目立つという意味。現代語の「におう」には、よいにおいと不快なおいの両方の意味があるけれど、古文の「にほふ」は赤い色が他より目立って美しいというよいイメージだけなんだよ。



夕焼けで真っ赤に染まる景色や紅葉はまさに「にほふ」だね。



### 「うつろふ」

辞書で「うつろふ」を調べると、「移動する、色づく、色があせる、花や葉が散る、心変わりする、時が過ぎる」などたくさんの意味が出てくる。どれも時間の経過や場所の移動に関係している（よ）に着目しよう。「移る＋ふ」という語源を知っていれば全部の意味を覚えなくても、なんとなく意味がわかるよね。古文の世界では、「うつろふ」はよく使われる感覚だよ。

**注** 「映ろふ」は「映っている」の意味。